

コロナ禍における環境教育の 実践的な学びのために ——現場からの検証と提案

昨年来、Covid-19に端を発するパンデミックは、対抗するワクチンに希望の光が見える一方、旧来株に加えて変異株が現れるなど、国の内外においてなかなか収束する気配がありません。このコロナ禍は、教育活動全般、さらには環境教育に対しても多大な影響を与えています。それは理論研究よりも実践普及の現場において大きいと言えます。本学会「新型コロナウイルス感染症緊急研究プロジェクトチーム」が昨年5月から6月にかけて、全国の会員を対象に行った調査では、活動を延期・中止したプログラムが90%以上を占めるなど、その影響は深刻である実態が明らかになりました*。

ところで、調査からほぼ1年が経ち、状況も日々刻々変化する中で、環境教育の実践の現場、とりわけ私たち関西支部のフィールドでは、どのようなことが起こっているのでしょうか、また実践者はどのように捉えているのでしょうか。本シンポジウムでは、実践現場の最前線で奮闘しておられる方々をスピーカーに迎え、場所としての野外・屋内、主体としてのNPO/NGO・センター等施設・学校などなど、様々な観点を切り口に、環境教育の現状とこれからについて議論をしたいと思えます。

本研究集会は、昨年10月の研究集会（2020年10月3日開催）「SDGsを問い直す」や、今年2月の研究大会（2021年2月21日開催）「パンデミックを通して考える環境教育の普遍性」が扱った大きなテーマを、実践の現場に落とし込んで具体的に考えようとするものです。その意味では前2回の集会や大会の延長線上にあります。より多くの方々のご参加により、環境教育の意義を実践的に問う、多面的で多層的な議論になることを願っています。皆さま、ぜひ奮ってご参加ください。

* https://www.jsfee.jp/images/general/covid-19_survey_june2020.pdf

2021.5.30  14:00～17:00

■プログラム

- 13:45 開 場
14:00 開会挨拶
水山 光春 関西支部長
14:10 「コロナ禍における環境教育の実践的な学びのために
——現場からの検証と提案」
新堀 春輔 京都市環境保全活動推進協会 課長
杉原 育夫 大阪YMCA/紀泉わいわい村 所長
中井 達郎 (公財)日本自然保護協会 参与
山本美貴子 明石市立大観小学校 教諭
15:10 休 憩
15:20 パネルディスカッション
新堀 春輔, 杉原 育夫, 中井 達郎, 山本 美貴子
コーディネーター：丸谷 聡子 明石市議会 議員,
明石のはらくらぶ 代表
水山 光春 京都橋大学 教授
17:00 総括・閉会挨拶
17:10 終 了

■参加お申込み方法

メールの件名に「関西支部オンライン研究集会 参加希望」と明記の上、下記のメールアドレス宛に①お名前、②登録用メールアドレスを記入し、お申込みください（5月29日（土）22:00 締切）。

 jsoee.kansaichapter@gmail.com

■開催方法（Zoomミーティング）

参加お申込みされた方に、メールでミーティングURL、ミーティングID、パスワードを当日11時までにお知らせいたします。11時の時点で確認できない場合はメールにてご連絡をお願いいたします。

ご自身のPC、タブレット、スマートフォンからインターネット接続でご参加ください。使用機器のウェブカメラ（内蔵または外部）、マイク、スピーカーが接続されているかどうかをご確認の上、ご参加ください。